



食べる・見る・遊ぶ

まるごと

せたなを楽しもう！

せたな3大イベントが

スタート！

「海、山、温泉と自然に恵まれたせたな町は、

山海の幸も豊富で素材を生かした加工品も数多く生産されています・・・」

このような紹介をされることが多いせたな町ですが、本当にその良さを皆さんお気づきでしょうか！もしもまだ、お気づきではなければ、まず色々なイベントに参加して感じてみませんか！？そして、その魅力をご存知の皆さん、せたな町を満喫できるシーズンが到来しました！

「さあ、せたなを楽しみましょう！」

◆せたな3大イベント◆

- 5月第2日曜日
～水仙まつり～
- 7月最終土曜日
～がっばり海の幸フェスタ
inわっためがして大成～
- 8月第1土・日曜日
～せたな漁火まつり～



第1弾!

第39回 玉川水仙まつり～雨にスイセン映える～



せたな3大イベント第1弾として、5月8日(日)に玉川公園で「玉川公園水仙まつり」(主催:同実行委員会)が開催されました。当日はあいにくの肌寒い雨のなかツアー客や町内外の方々が訪れ、雨の中鮮やかに映えるスイセンの黄色や白、また桜のピンク色のコントラストを楽しんでいました。ステージでは、浮島竜神太鼓、二俣風神太鼓、玉川音頭の皆さんによる郷土芸能のほか、大橋美月さん、ジंकスタイルの皆さん、そして檜山北高等学校吹奏楽局の歌や演奏が披露されました。また、会場ではこの度の東日本大震災の募金活動として、スイセンの球根のチャリティー販売も行われ、結びには恒例のもちまきで会場も大きく盛り上がりました。



町の花スイセン

ところで、この主役のスイセンはいづころから丹羽地区に咲き、私たちを楽しませてくれていたのでしょうか？

玉川公園のある丹羽地区は、明治25年丹羽五郎氏を中心とした福島県からの集団入植により開拓された地区で、大正11～15年にかけて丹羽五郎氏が四国からスイセンを取り寄せて植え始め繁殖させたのが始まりです。それから、玉川神社の参道に植樹をしたり、当時の

小学生により小金山(玉川公園)の中腹に植えられていきました。平成9年には旧北檜山町において「全国水仙サミット」が開催されるなど、歴史あるかわい

い花が私たちの「町の花」となっています。そんな、町の花水仙を広めた丹羽地区は、今年で開基120年を迎えます。今後はこの丹羽五郎氏の歴史をたどるフットパス玉川コースのオープンも予定されています。楽しみですね。



スイセンいっぱい運動

玉川公園は、30種類30万株のスイセンが咲き誇る公園として、町内外へ知られるようになりました。

そこで、もつと町全体に町の花を咲かせていこうという声が高まり「スイセンいっぱい運動」が平成21年からせられた観光協会主催により行われています。昨年は東京から毎年修学旅行で訪れる郁文

館高等学校の生徒も植栽作業に参加し、今年も引き続きこの運動に参加する予定です。町内を歩いてみると、庭先にスイセンの花を見かけますが、かわいらしくて咲いていますね。

今年はまだ時期が過ぎてしまいましたが、皆さんも町の花「スイセン」を来年庭に咲かせてみませんか？